

平成22年9月期決算の概要①【損益の状況】

1. 足利ホールディングス連結

◇連結粗利益は、足利銀行の業務粗利益が前年同期を上回ったことを受け、前年同期比+6億円の477億円(計画対比52.3%)となりました。
 ◇貸倒償却引当費用が前年同期比▲20億円の64億円、株式等関係損益が前年同期比▲43億円の▲0億円となったこと等により、中間純利益は前年同期比▲17億円の122億円(同比67.0%)となりました。

(単位：億円)

	21/9期実績	22/9期実績	21/9期比	23/3期計画	計画対比(進捗率)
連結粗利益	471	477	▲6	912	52.3%
営業経費(▲)	293	302	▲9	—	—
貸倒償却引当費用(▲)	84	64	▲20	124	51.6%
株式等関係損益	42	▲0	▲43	—	—
経常利益	136	109	▲26	185	58.9%
特別損益	2	17	▲15	—	—
貸倒引当金戻入益・償却債権取立益	3	22	▲19	—	—
中間(当期)純利益	139	122	▲17	182	67.0%

2. 足利銀行単体

◇金利低下の影響等により、資金利益・役務取引等利益は前年同期を下回ったものの、国債等債券損益63億円を計上し、業務粗利益は前年同期比+5億円の466億円(計画対比51.7%)となりました。
 ◇経費が261億円(同比48.8%)となったことから、実質業務純益は204億円(同比55.7%)となりました。
 ◇一部大口先の業績悪化の影響から、不良債権処理額は63億円となりましたが、貸倒引当金戻入益等32億円により、実質信用コストは、前年同期比▲30億円の30億円(同比29.7%)に改善しました。
 ◇経常利益は前年同期比▲40億円の136億円(同比51.5%)、中間純利益は前年同期比▲14億円の164億円(同比62.1%)となりました。

(単位：億円)

	21/9期実績	22/9期実績	21/9期比	23/3期計画	計画対比(進捗率)
業務粗利益	460	466	▲5	900	51.7%
資金利益	372	346	▲26	764	45.2%
役務取引等利益	54	52	▲2	127	40.9%
その他業務利益	33	67	▲34	8	837.5%
国債等債券損益	30	63	▲32	—	—
経費(▲)	251	261	▲10	534	48.8%
うち人件費(▲)	119	124	▲5	248	50.0%
うち物件費(▲)	113	118	▲5	256	46.0%
実質業務純益	209	204	▲4	366	55.7%
コア業務純益	178	141	▲37	366	38.5%
一般貸倒引当金繰入額(▲)	39	①	▲39	1	—
業務純益	169	204	▲34	364	56.0%
臨時損益	7	▲68	▲75	▲100	68.0%
うち不良債権処理額(▲)	24	②	▲38	100	63.0%
うち株式等損益	36	▲0	▲36	—	—
経常利益	177	136	▲40	264	51.5%
特別損益	1	28	▲27	—	—
貸倒引当金戻入益・償却債権取立益	2	③	▲29	—	—
中間(当期)純利益	179	164	▲14	264	62.1%
(注)実質信用コスト=①+②-③					
実質信用コスト(注)(▲)	60	30	▲30	101	29.7%

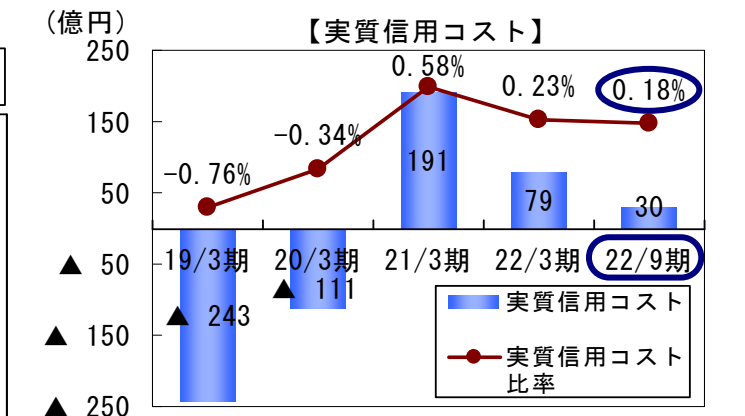
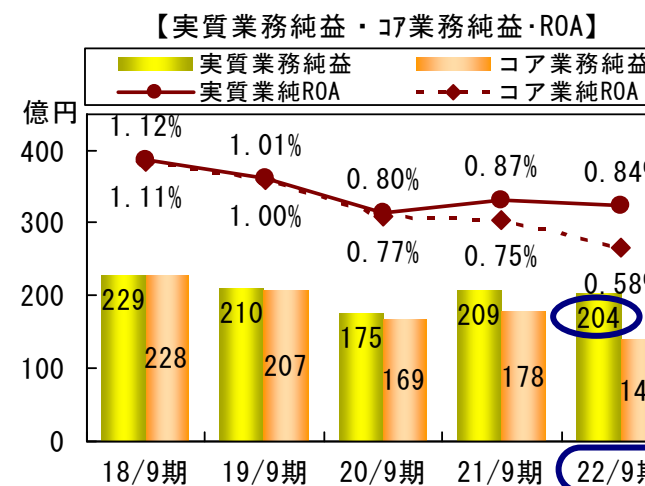
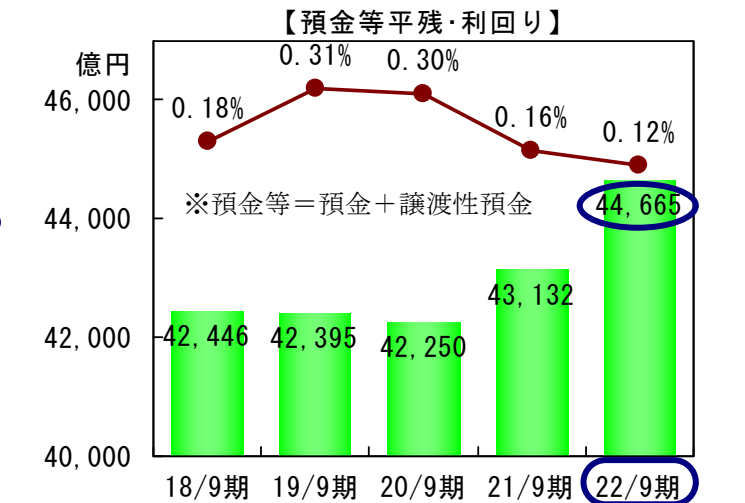
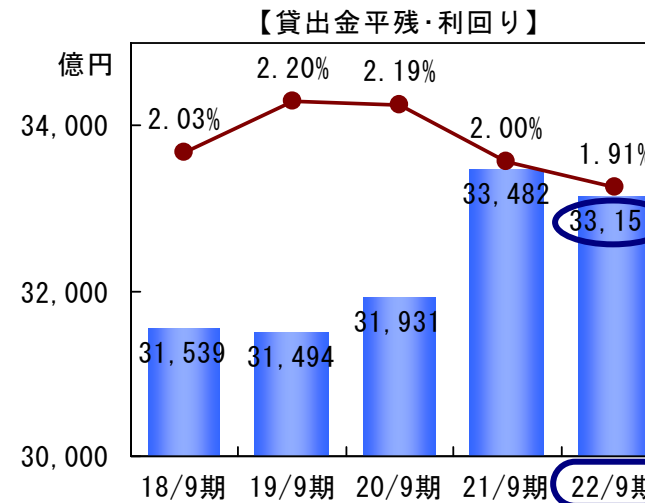
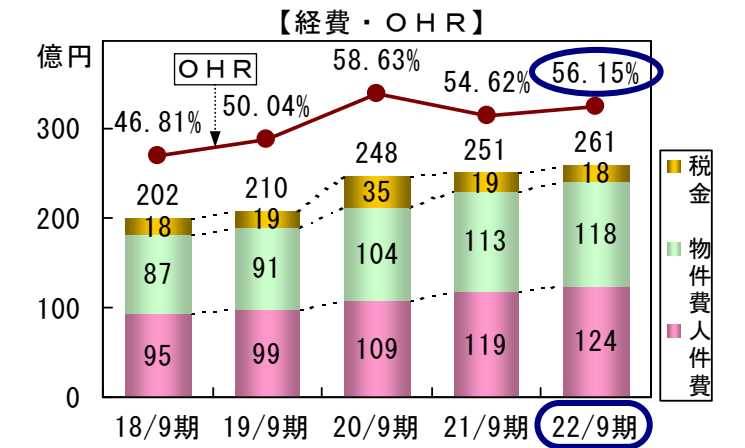
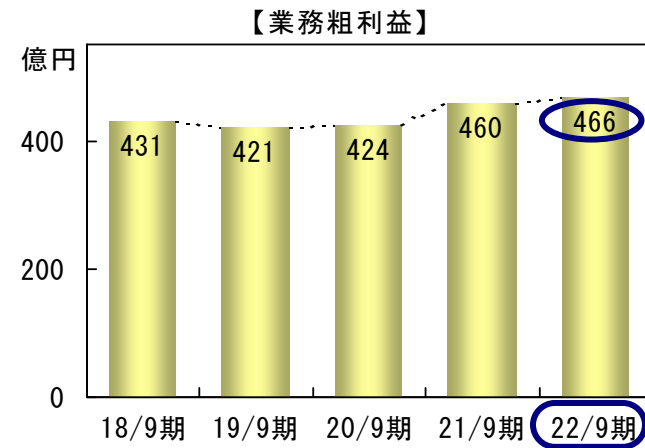
3. HD連結と銀行単体の差額の内訳

(単位：億円)

	22/9期	主要内容
中間純利益の差額	▲41	⇒HD連結122億円-銀行単体164億円
HD劣後ローン支払利息	▲16	⇒HD劣後ローン残高800億円
HDのれん償却	▲31	⇒22/9末のれん1,100億円
その他HD連結調整等	1	⇒有価証券関係損益の調整(※)等
銀行子会社分の損益	5	⇒銀行連結と銀行単体の当期純利益の差額

※足利銀行の保有する有価証券の取得原価が、HD連結と銀行単体で異なるため生じるものです。

4. 主な計数の推移(銀行単体)



※1. 実質信用コスト比率=実質信用コスト/貸出金平残
 ※2. 22/9期の実質信用コスト比率は年率換算

平成22年9月期決算の概要②【主要勘定（銀行単体）】

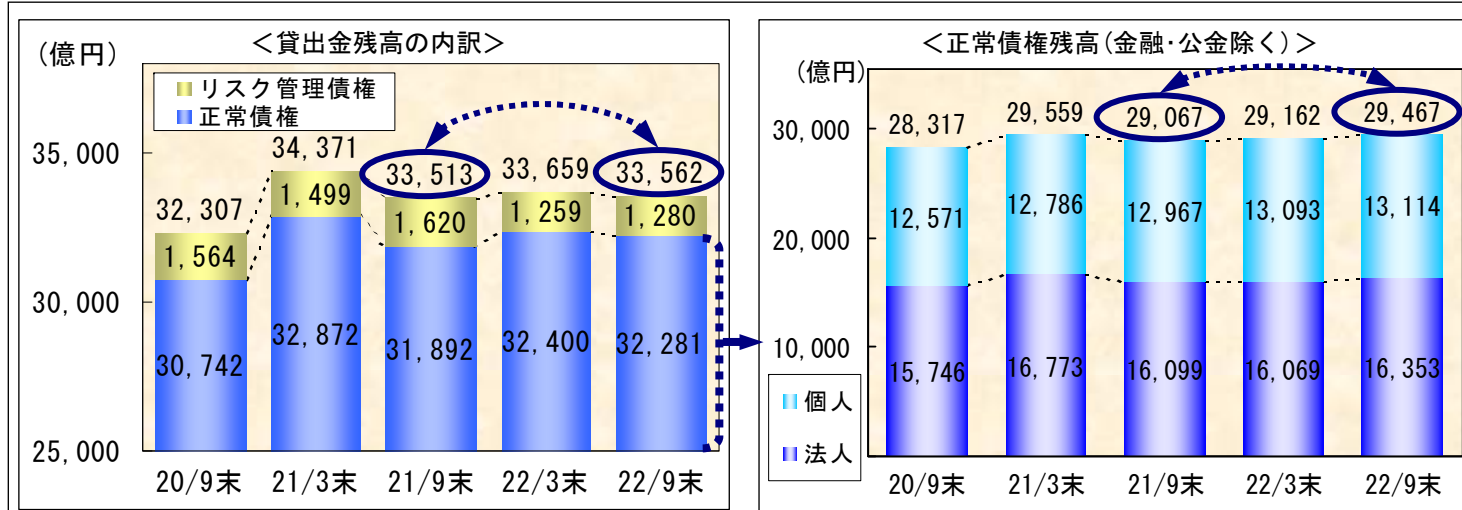
1. 貸出金

- ・貸出金は、21/9末比+49億円(年増率0.1%)の33,562億円となりました。このうち、個人の正常債権は同比+146億円、法人の正常債権は同比+253億円と、それぞれ増加いたしました。
- ・住宅ローンについては、同比+246億円の11,864億円に増加したほか、件数も同比+896件の81,241件となりました。
- ・法人融資先数(要管理先以上)は、20,237先(同比+651先)に増加となりました。

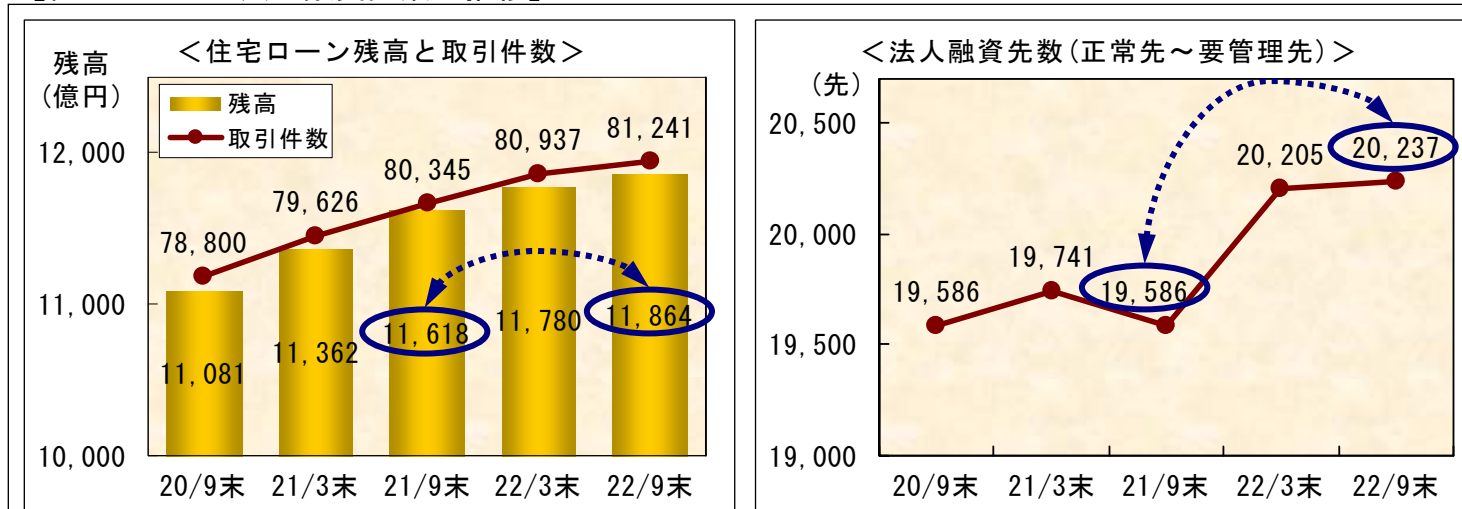
(単位：億円)

	21/9末	22/9末	21/9末比	(年増率)	22/3末
貸出金(末残)	33,513	33,562	49	0.1%	33,659
個人貸出	13,270	13,390	119	0.9%	13,370
うち正常債権	12,967	13,114	146	1.1%	13,093
法人貸出	17,417	17,358	▲59	▲0.3%	17,051
うち正常債権	16,099	16,353	253	1.5%	16,069
公金+金融	2,824	2,813	▲11	▲0.3%	3,237
(個人ローン)					
個人ローン	12,064	12,275	210	1.7%	12,207
うち住宅ローン	11,618	11,864	246	2.1%	11,780

【貸出金残高の推移】



【住宅ローン・法人融資先数の推移】



2. 預金・個人預り資産

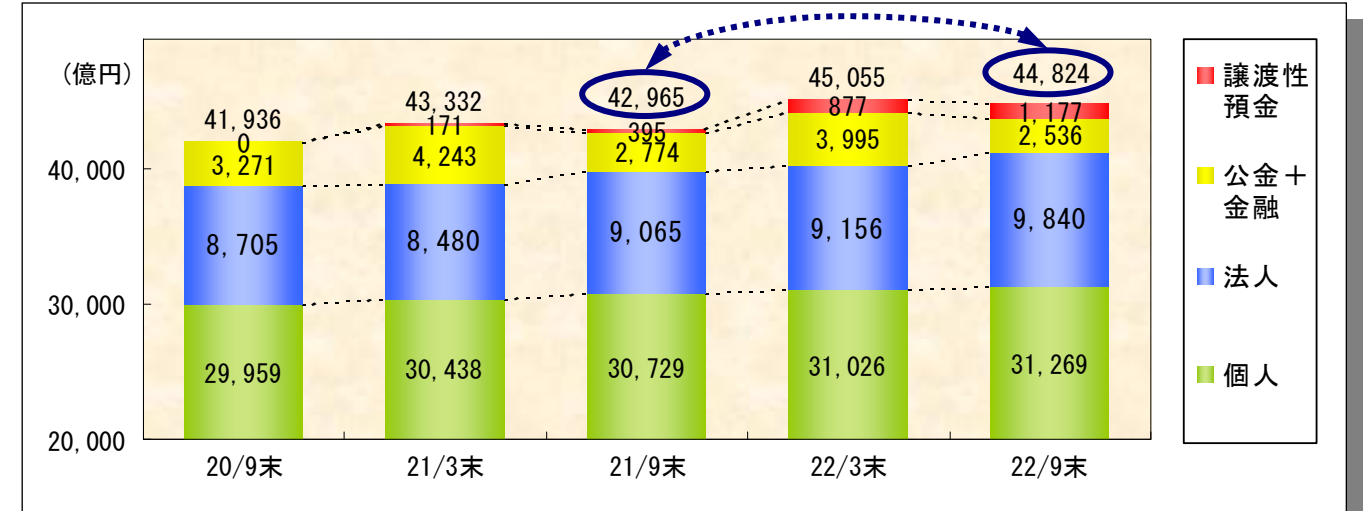
- ・個人預金と法人預金が堅調に増加したほか、譲渡性預金も増加し、預金等残高(預金+譲渡性預金)は、21/9末比+1,858億円の44,824億円(年増率4.3%)となりました。
- ・個人預り資産は、同比+460億円の6,221億円(年増率7.9%)となり、個人預金とあわせた個人金融資産残高は、同比+1,000億円の37,490億円(年増率2.7%)となりました。

(単位：億円)

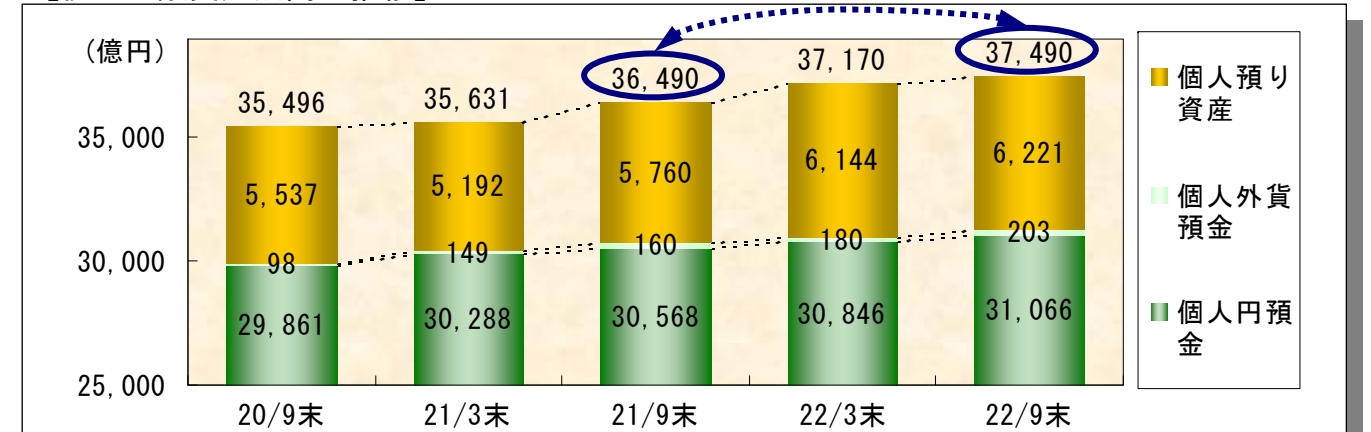
	21/9末	22/9末	21/9末比	(年増率)	22/3末
預金等残高(末残)	42,965	44,824	1,858	4.3%	45,055
預金(末残)	42,569	43,646	1,076	2.5%	44,177
個人預金	30,729	31,269	540	1.7%	31,026
法人預金	9,065	9,840	775	8.5%	9,156
公金+金融	2,774	2,536	▲238	▲8.5%	3,995
譲渡性預金(末残)	395	1,177	781	197.7%	877
(個人預り資産)					
個人預り資産	5,760	6,221	460	7.9%	6,144
投資信託	2,339	2,367	28	1.2%	2,459
債券(約定ベース)	2,189	2,182	▲6	▲0.3%	2,238
保険※	1,232	1,670	438	35.5%	1,445

※保険=個人年金保険+一時払終身保険

【預金等残高の推移】



【個人金融資産残高の推移】



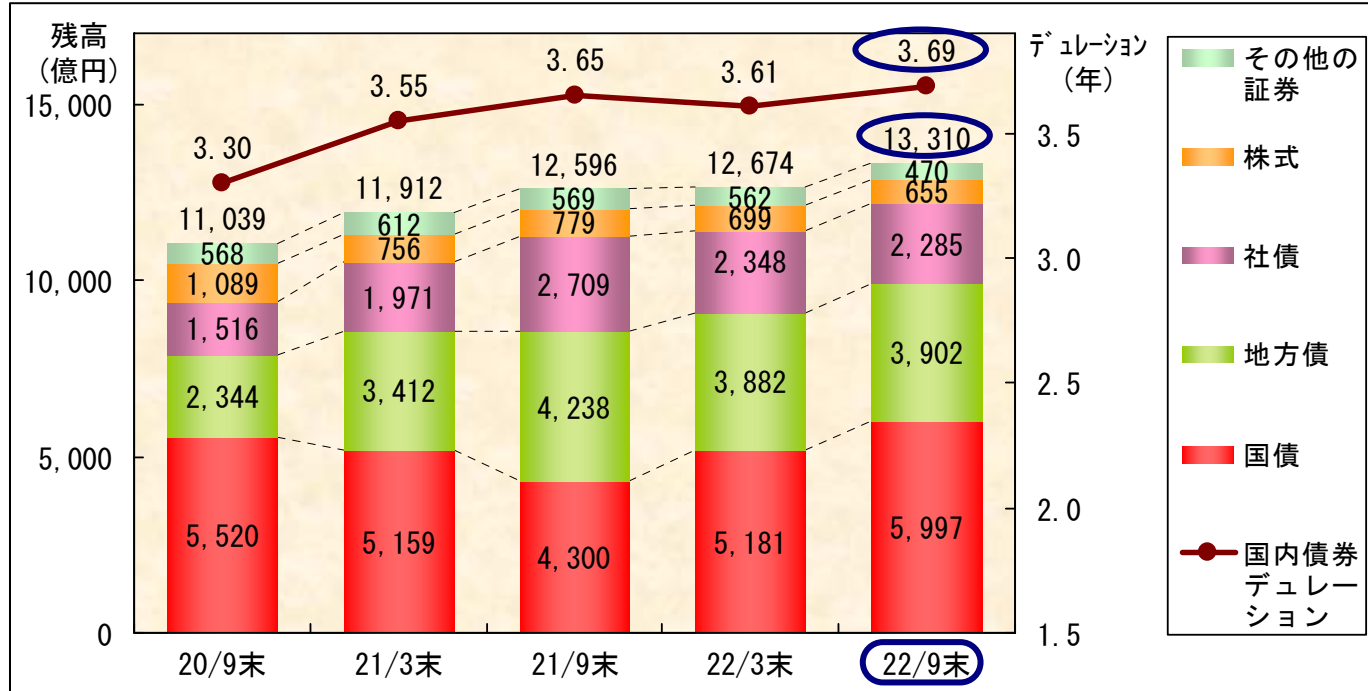
平成22年9月期決算の概要③【有価証券・不良債権・自己資本比率】

1. 有価証券の状況

(1) 有価証券残高・国内債券デュレーション（銀行単体）

- ・有価証券残高は、国内債券を中心として、13,310億円(22/3末比+635億円)に増加いたしました。
- ・債券は、金利動向を踏まえた売却と残高の積上げを行い、国債が5,997億円(同比+815億円)、地方債が3,902億円(同比+19億円)、社債が2,285億円(同比▲63億円)となりました。なお、国内債券のデュレーションについては、ほぼ横ばいの3.69年となっております。
- ・株式は、株価下落の影響から、655億円(同比▲44億円)に減少となりました。

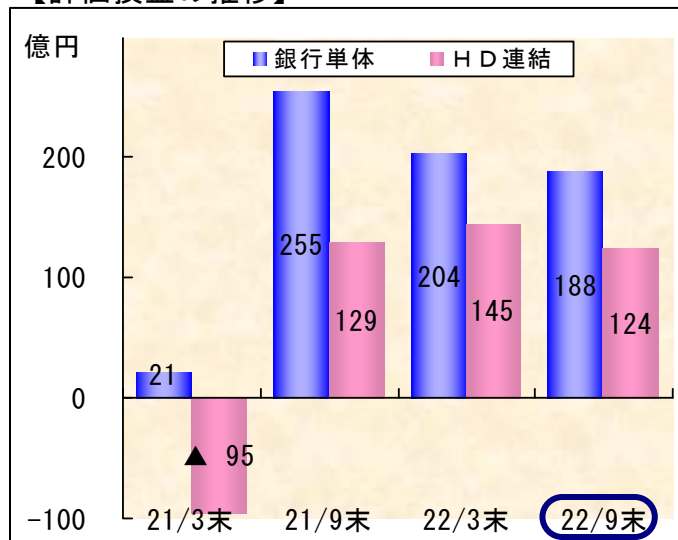
【有価証券残高と国内債券デュレーションの推移】



(2) 「その他有価証券」の評価損益

- ・評価損益は、株価の下落等から、銀行単体が188億円のプラス(22/3末比▲16億円)、HD連結が124億円のプラス(同比▲20億円)にそれぞれ減少いたしました。
- ・なお、HD連結と銀行単体で評価損益に差が生じておりますが、足利銀行の保有する有価証券について、HD連結と銀行単体における取得原価が異なるため生じるものであります。

【評価損益の推移】



【銀行単体ベース】 (単位：億円)

	22/9末	22/3末比	22/3末
評価損益	188	▲16	204
債券	175	43	132
株式	60	▲39	100
その他	▲48	▲20	▲27

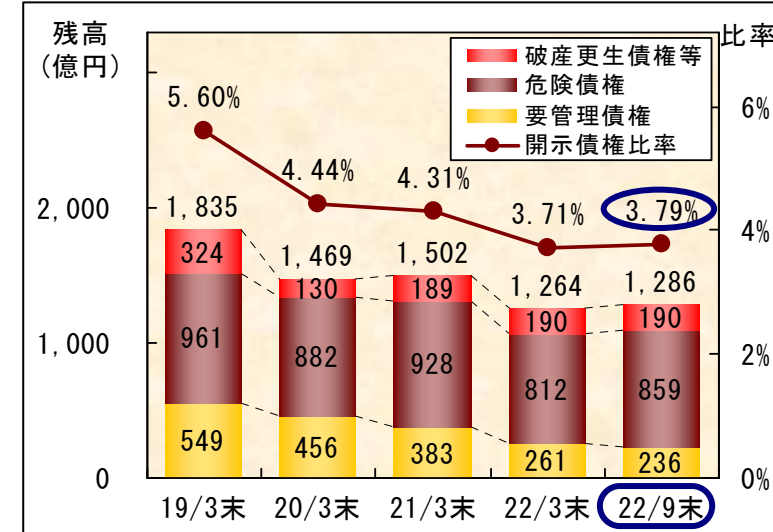
【HD連結ベース】 (単位：億円)

	22/9末	22/3末比	22/3末
評価損益	124	▲20	145
債券	179	40	139
株式	▲25	▲39	14
その他	▲29	▲20	▲8

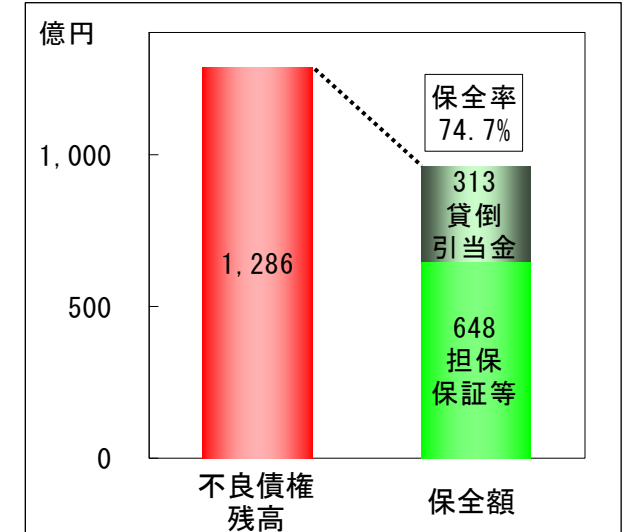
2. 不良債権の状況（銀行単体）

- ・要管理債権は減少したものの、一部大口先のランクダウンによる危険債権の増加から、不良債権(金融再生法開示債権)は、22/3末比+21億円の1,286億円(比率3.79%)となりました。
- ・不良債権(金融再生法開示債権)に対する保全状況は、担保・保証等による保全額が648億円、貸倒引当金が313億円となり、保全率は74.7%となりました。

【金融再生法開示債権の推移】



【金融再生法開示債権の保全状況】



3. 自己資本比率

自己資本比率は、中間純利益の着実な積み上げ等により、HD連結8.61%(22/3末比+0.98%)、銀行単体8.17%(同比+0.70%)に上昇し、いずれも8%の水準を上回りました。

【22/9末の自己資本比率】 (単位：億円)

項目	HD連結	銀行単体
基本的項目(Tier1)(A)	① 1,225	1,839
補完的項目(Tier2)(B)	② 863	152
控除項目(C)	7	-
自己資本額(A)+(B)-(C)	2,081	1,992
リスク・アセット	24,151	24,380
自己資本比率	8.61%	8.17%

- ① HD連結のTier1については、のれん相当額(1,100億円)が控除された金額となっております。
- ② 劣後ローン800億円のうち、87億円がTier2に不算入となっております。

【自己資本比率の推移】

